

「挨拶で変わる あおもりが活きる」 天明塾長講話

第7期、一緒に勉強させていただきます。塾長の天明でございます。よろしくお願いいたします。

私は何を大事にしているかという、人間力、人間力が一番ベースだなというふうに思っているんです。

ネットワークが広がっていく、生きていくというのは、自分が何を与えられるか、これで決まってくる。だから究極のところにおいては、自分自身を高めていく。これを私は「人間力」ということにしている。

今日のテーマは「挨拶で変わる あおもりが活きる」。たかが挨拶、されど挨拶って私は思っているのね。「凡事徹底」という言葉がある。

イエローハットを創った鍵山秀三郎さんは、自動車部品の卸売り、自転車の後ろに自動車部品を積んで、小売店に行って。こんなことからスタートをして、今は上場会社になったけれども、そのスタートの時、鍵山さんが一生懸命考えた。自分に何ができるだろう、何の取り柄もない自分に。でも、普通のことでも徹底してやることができれば非凡になる。そうだ、自分は凡事を、当たり前のことを徹底してやろうと言って、鍵山さんはお掃除をやるわけだ。徹底してお掃除。トイレ掃除や会社の周りのお掃除。

ずっとそれを極めていく中で、掃除というのは自分の心を磨く行為だということが分かってきた。3年、4年、5年経つうちに、だんだん「社長、一緒にやらせてください。一緒に手伝いますよ」と、仲間が増えてくる。今では47都道府県全部に「日本を美しくする会」、各地に「掃除に学ぶ会」がある。何万人会員がいるのか、何十万人いるのか、よく知りませんが、全国にこのお掃除の凡事徹底が広がってきている。

大事なことは、凡事でも徹底してやると文化になる。徹底してやると自分の取り柄になる、長所になる。

私はお掃除をあまり徹底してやることは少ないんだけど、挨拶だけはずっとやってきました。挨拶一つでも徹底してやっていると、「自分が変わる、地域が変わる、日本が変わる」お掃除も同じです。

問題解決は、改善の3原則。私はずっと経営コンサルタントの仕事が長かったの。潰れた会社の経営診断をやって、そういう中から会社を蘇らせていくということをやってきたんだけどね。そのコンサルティングの根本は、これだった。私は恩師から教わってきた。「上が変われば下

が変わる」「自分が変われば相手が変わる」「家庭が変われば地域が変わる」。でも、上が変わらなかつたらどうするの？自分が変われば相手が変わる。そう、自分が変わったらい。家庭が変われば地域が変わる。そうそう、家庭から変わっていくよ。

変わるって？当たり前のことを当たり前に行う。凡事を徹底できるように変わること。その当たり前の典型が、私の場合は挨拶なんだ。掃除でもいいんだよ、日記を付けるでもいいし、早起き、4時半に起きてとか、何でもいい。1回だけは誰でもできるよね。でも、それを続けていくって大変なことだよ。

今日は一緒に挨拶を考えていきたいのです。挨拶も凡事の1つ。

挨拶が元気な街のキーワード。挨拶がなぜ大事か。もう色々な町に行って、皆、標語が載っている。神奈川県も千葉県も群馬県も挨拶運動、挨拶運動と看板が出ていたりなんかしています。でも、なかなか浸透しないから、いつまで経っても標語が無くならないわけだ。

私はOAが元気な会社のキーワード、OAが元気な町のキーワード、OAが元気な家庭のキーワードだと思っている。それに、もう1つ加えてOAA、お掃除、挨拶、ありがとうのOAAですが。

僕らの頃に麒麟ビールとアサヒビールが2大ビール会社だった。ところが麒麟はどんどん上に行く、アサヒはどんどん下がる。アサヒビールは潰れかけたわけ。その時に、コクがあるけれど切れがいいスーパードライが出来たわけだ。でも売れなかった。全然売れなかった。

それで一番困ったのは住友銀行。住友銀行がこのメイン銀行だった。アサヒビールが潰れると住友銀行も大変なことになる。何としてもアサヒビールを救わなくては行けないって、白羽の矢が立ったのが樋口廣太郎さんという、当時、住友銀行の頭取になると目されていた人。

その樋口さんは「アサヒビールに行ってびっくりする。ビール会社は食品会社なのに、髪はボサボサ、ネクタイは曲がっていて、身だしなみ、挨拶、礼儀、そういうのが全然できてない。とんでもないことだとびっくりした。それで樋口さんが始めたのは、挨拶、身だしなみ運動。身だしなみをきちっとやって、徹底した挨拶運動をやった。も

う玄関でもエレベーターの中でも。

そこで、この挨拶運動、身だしなみ運動で「よし、やろう」と思った営業の人達は、こぞって店頭の古い在庫を引っ込めて、真新しいのを置いて、そして銀座とか東京駅前とか霞ヶ関とか、都心部に行って、小さなおちよこで「おはようございます、アサヒスーパードライです」こうやって一生懸命、皆に試飲してもらった。それでスーパードライは売れ始めた。その後スーパードライの快進撃はご存じのとおりだと思います。

挨拶って、私は「対象と同化」だと思う。挨拶は礼儀を超えている。「おはようございます」「ありがとうございます」「ごめんなさい」、それはそれ、礼儀。でも挨拶を徹底すると対象と一つになれる。

挨拶の本質は「相手があって自分がある」という感謝の気持ち。その心は、「お陰様」「ありがとう」「もったいない」「ごめんなさい」。この4つが一番大事な言葉だな、いい言葉だなと私は思っているんですが。

この挨拶を徹底していくと文化になる。会社でも家庭でも地域でもそうなんだけれど、挨拶を徹底すると上に感謝の文化ができる。お客様満足の文化、コミュニケーションの文化、自己革新の文化。挨拶で自分が変わっていくということなのね。家族を大切に作る文化。リユース、リサイクルの文化。

だから、まず挨拶からやろうよ。改善とは上が変われば下が変わる。自分が変われば相手が変わる。家庭が変われば職場が変わる、あるいは家庭が変われば地域が変わる。家庭が変われば青森が変わる。だから上から、自分から、家庭から、当たり前のことをやっつけていこうよ。その基本がOA。

今日はA、挨拶から。お辞儀の基本形。挨拶の基本はお辞儀だよ、お辞儀は3つのポイントがあります。服装、姿勢、屈体の礼。挨拶はきちっとした服装で、ボタン、ネクタイ、シャツ。次に姿勢。立った時のうなじとか、それから曲げた時に頭が上がったり下がったりしない、背中が曲がらない。この角度は45度がきれいだと言われる。45度じゃなくてはいけないのではなくて、45度がきれい。45度の時、目線は大体1メートルから1メートル半ぐらいになる。15度、30度、45度、色々あって、会釈は15度。

女性は頭を下げた時に手が前で軽く交差をする、こんなふうに教わってきましたけれども。

踵をつけます。顎を引きます。指は真っ直ぐです。親指を仲間はずれにしないで、きちっと脇に付けて、頭のてっ

ぺんで天井を貫くようにすると背中が伸びますよね。これで「礼」と言いますから、45度の礼をしてみましょう。自分が、きれいに45度までいったなというところまでいきましょう。

<挨拶の練習>

この立志挑戦塾は「起立」「礼」と言う時は、必ずこのきちっとした挨拶をしましょう。これで習慣づけをすれば、家庭でも地域でも会社でもなっています。自分が変われば周りが変わってくる。「挨拶で変わる 青森が生きる」、私は本当にそれを信じています。

ここから一人ひとりが凡事を徹底することで青森を変えていきたいと思います。

終わります。ありがとうございました。

「国を愛しても国家には気をつけろ」

講師 野田 一夫氏 [名誉塾長 一般財団法人日本総合研究所会長]

皆さん、こんにちは。立志挑戦塾の第7期、入塾おめでとう。僕をご存じのごとく初代の塾長です。塾長になった経緯は、現知事の三村さんが東京で出版社に勤めておられた時に、平松守彦さんを非常に尊敬していた。そして自分が実際に政治家になったとき、自分は知事としてどうすべきかと、モデルとして大分県の平松行政というものを考えた。平松さんと話をしたかどうかは知りませんが、立志挑戦塾を、この塾を創ろうと。何といても、国も県も、結局発展するためには人財だ。人財の育成というのを学校だけに頼るわけにはいかない。青森県としては、将来の青森を担うのは、今は若い人財だと。将来の青森を担うといっても、何も青森に住むというだけじゃないんです。青森県人で日本の各地、あるいは世界の各地で活躍しても、なお故郷というものを考え、何かあった時にはいつも頼りになるそういう人財を育てよう。

そういうことで相談した結果、とにかく「それはいいじゃないか、創ろう」と。実際に、平松さんも忙しい中で、最初は確か2回、来てくれたね。誰を一体塾長にしたらいいかと言った時、嬉しいじゃないですか、言下に平松さんは、「東京に野田一夫という自分の友人がいる。彼は多分宮城県県の県立大学の学長を辞めて東京に帰っているから、頼んでみよう」と。

今日のテーマは「国を愛しても国家には気をつけろ」。このテーマから君達は何を考える？「国を愛しても国家には気をつけろって、国と国家というのは一緒じゃない？」と思っている人もいる？どうだ？国と国家というのはどう違う？英語では少なくとも、国とか国家にあたる言葉が3つある。カントリー、ネイション、ステイツ。ユナイテッドステイツオブアメリカというだろう。

まずカントリーというのは日本の国ということと非常に近い。なぜならば、日本は「お国はどちらですか」と言うだろう。この場合の「お国」というのは「故郷」のことじゃないか。故郷、これもお国なんだ。英語もね、カントリーの中には両方あるんだ。

僕はよく大学で学生さんに聞くんだよ。工業国家としてアメリカと日本、19世紀末から20世紀の約100年間で一番工業化に成功した国を3つ選べという、必ずこの2つは入る。つまり、工業国家としては一番遅くスタートしたにもかかわらず、その100年で先進国を追い抜いちゃった国、アメリカも日本も先進国になった。

しかし、国のあり方はまるっきり違うだろう？アメリカ

は国土、カリフォルニアを含めたら日本の25.5倍。日本は25分の1の上に山ばかりだよ。大体山が70%以上あるんだから。残りは丘陵地みたいなところで、本当に平地なんていうのは10数%ぐらいしかないんだ。工業国家になるのに、どちらの国が有利だったか。愚かな質問だと皆、思わないか。僕が東大で講演をした時も、10人中9.5人、「それはアメリカだ」と言う。しかし実は日本は工業国家になるのに非常に恵まれている。その時の日本人も、今の日本人も気がつかない。一生懸命努力をしてそうだったと思っているんだよ。

一番大きい理由は、徳川時代、非常に日本の文化が栄えた。徳川時代の唯一のまともな産業は農業。農民が90%。武士と町人と職人が10%。大まかに言うとそう。そういう人達が都市に住んで創り上げた江戸文化というのが今の日本の文化になっている。江戸文化というのは、程度低いか？高いだろう。世界中が驚くような文化を創ったのは日本が豊かだったからじゃないか？今だって、ボストンの美術館に行ったら。あそこは日本の作品を持っているよ。あれはほとんど江戸時代。

そうするとね、何を意味するかというと、唯一の産業である農業の生産性が高かったから、消費者階級、いわゆる武士とか町民があれだけの生活をして、あの文化を創り上げたと思わんか。そう思ったよな、頷いたよな。なぜ、そんな地理的には恵まれていない条件の中で農業の生産性が高かったんだ。工業は何もないよ。農民が勤勉だったからかな。勤勉なだけじゃ生産性は上がらないよね。

頭が良かった。教育を受けた。限られた土地の中で高い生産性を上げるためには、頭を使わなきゃならない。

言うなれば、工業はなかったけれども農業に関しては非常に生産性が高かった。いいか、そこへ工業が入ってくる。工業革命が起こるわけだ。工業革命って何だ、機械が入ってくる、肥料が入ってくる。狭い土地で機械を入れたりすると何が余る？労働力じゃないか。結局、農業が発達するにつれて余剰労働力が出る。教育を受けて勤勉で、意思の疎通のいい人間が国内にいっぱいいる。

日本は、国という言葉は国家でもあるし、お国でもあるということが非常に悲劇的なんだよ。日本人は「お国のために」と言った時は「国家のために」と思うんだよ。しかし、全ての国がそうではないんだ。何が一番大きな問題かということ、国家というのは権力機構、国というのは本

来、土地なんだよ。

律令国家が生まれると、そうはいかないんだよ。土地というのは国家。土地もろとも、そこに住んでいる人間も行政法と刑法で罰せられる。余計なことができなくなる。流れ着いて住んでいるやつは、「あやしいやつだ」ということとなる。

それは何を生むか、国家権力というのが生まれる。つまり、権力機構。権力機構というのは庶民にとっては温かくない。役人というのは、ここにもたくさんおられるが、役人が悪いわけではないよ、親しみはあまりないだろう。特に警察。警察官から声をかけられたら、嬉しいなという人はいないだろう。何か、俺、悪いことをしたかなと。だから、国家というのは、元々は人間が住んでいた土地もろとも主権を確立する。

ところが国というのは、非常に情緒的なものだと思うな。それは青森に生まれて、青森に住んでいる人はあまりそう思わない。青森で生まれて、青森で物心がついて、青森に友達もいて、どこか他所の国に行ってみると、青森が懐かしいんだよ。同じように、青森で生まれたり、九州で生まれた人間は、故郷は違うけれど、外国に行ってみると日本というのが故郷になるんじゃないか。

僕は名古屋に生まれた。うちの父親は名古屋の工場にいたから。僕に親父はいつも言った。「お前の故郷は東北の盛岡というきれいな城下町だ」、行ったことはないけれども盛岡だと。それは何を言いたいかというと、やっぱり人間にとっては理屈を超えている、故郷というのは。僕の場合はそこで育ったわけではない。君達は願って生まれてきたわけじゃない。しかし、気がついた時は、自分は盛岡、あるいは青森にいる。そこに友達もいる、風俗習慣、音楽など、それは自分では思わないけれども他所の土地に行った時にセンチメンタル、情緒的なもので理屈を超えているんだよ。やっぱり自分が生まれた土地の様々なもの、知り合った人、言葉、あるいは風景、そういうものがずっと忘れられない。

だから結局、どこの国の人間でも自分の生まれた村とか町とか、やっぱり情緒がある。気がいたら自分にはお父さんお母さんがいて、友達がいて、先生がいてと人間関係がある。毎日食べる食べ物とか耳に聞こえてくる音楽であるとか、あるいはそこの街並み、そういうものが全部、自分そのものなんだ。

いいか、色んなことを話したが、日本というのは工業国家としては19世紀から20世紀に恵まれた。だから工業国家として成功すべくして成功したが、我々が考えているのと違って、アメリカというのは工業国家になるのには非常に恵まれていなかったのに、独自の考えを持って、日本と並ぶ工業国となっただけでなく世界一の経済大国にな

った。そういう見方でものを見ないとダメだ。

21世紀の日本を考える場合に、僕が言ったその見方で、君達は君達が生きる日本という国を眺めよ。

君達が人生を考える場合には、今という原点は非常に恵まれている。どこの国に行っても自分の人生を開くこともできる。グローバリゼーションという言葉がそうだ。

だけど、日本人の中で、今はチャンスだと思っている人は非常に少ないんじゃないかな。いつでも世界が開かれていて、日本も開かれていると思うから、案外色んな世界で起こった事件に対して君達は敏感じゃないんだ。しかし、状態は絶えず変わっている。今のような状態はいつまで続くのだろうかというのが僕の考えだ。これから10年も20年も今の状態が続くはずがない。どう変わっていくか。その時にますます日本がグローバリゼーションで開かれているかどうかだ。そう思わないか？だんだん住みにくい社会になっていくような気がする。

その時の悲観論を言っているんじゃない。人間は自分自身で判断をして、自分の環境というものを判断しなければいけない。それから、もしも好ましくない環境にいかうとする時には、いかにして自分達の努力で好ましくない環境にさせないようにするかということも非常に大事だ。そういう意味で、国を愛しても国家には気をつけろと言っているのは、非常に冗談めいているけれども、今は現実に近づいている。君達は国と国家の区別もあまりしないで生きてこられた。我々の世代は絶えず国家というものが頭の中に、肩に重い存在としてあった。

国は優しいじゃないか。春が来れば花が咲き、弘前城の城もある。国と国家を混同することによって人は人生を誤る。国家は絶えずウオッチしなければいけない。国は否定しようとしても愛着対象になる。だから、君達はもう青森を否定できない。「青森なんか嫌だ」って出て行ったやつに限って、春が来たら青森を思うんだ。これが人間なんだ。だからカントリーとステイツは違う。

「国を愛しても国家には気をつけろ」と。最後の結び目で何となく来たじゃないか。質問をどうぞ。

(塾生)

これから青森がどんどん良くなっていくために何がキーワードになると思いますか。

(野田講師)

青森の中で優れた指導者が出て来ることだと思う。

リーダーというのはすごく大事な存在なんだ。リーダーというのはたった1人でやる必要はない。色んなところで、会社でもリーダーは必要だし、あるいは役所にもリーダーは必要だ。

集団の力というのは一人ひとりを足した数ではないんだ。何倍にもなるんだよ。そして、一人ひとりの人間を集めて、その総力の何倍にもするような力をリーダーシップというんだよ。だから青森にそういうリーダーが生まれてこなければならぬ。おそらく知事がこういうものを創られたのは、君達にその期待を掛けているんじゃないか。だから、君達は one of them だと思わない方がいい。自分達はある役割を持った人間だという意識。それは本来の意味のエリート意識なんだ。日本でエリートというと、いい学校を出て、いい職について。大事なことは、エリートはエリートとしての自覚を持ってその役割を果たしたかどうかだ。今までの経歴とか、何も関係ない。今の職場の中で自分が果たす役割は one of them じゃない the only one ではないんだ。君達自身が青森を支える。皆が青森に住んでいる必要はないんだ。しかし、青森に対して理屈を超えた愛着を持った人間が色々な地域にいて、ここにいる人間と協力をして青森を発展させたいと思っているんじゃないかな。

(塾生)

先生の考えるリーダーの条件というのは何かあるんですか。

(野田講師)

リーダーの条件はね、人に影響を与えるということなんだ。リードするというのはそういうこと。だからね、悪いリーダーもいるんです。だけど、いい意味で人に影響を与えること。

リーダーというとすぐ指導者と訳すでしょう。あれは非常に良くない。リーダーって影響を与える人なんだ。英語でオピニオンリーダーというでしょう？聞いたことある？オピニオンリーダーって自分の上司じゃないでしょう。テレビであの人が言っていると納得できる、影響を受けると、その人はオピニオンリーダーなんだよ。職場の中で部長だから、課長だからリーダーじゃないんだ。その職場の中で、何かその人がいることで皆がまとまれば、その人はインフォーマルリーダーなんだよ。地位とかそういうものを超えているんだ。人に影響を与える人をリーダーというんだ。

(天明塾長)

ありがとうございました。

■ 「志を考える」

グループディスカッション

講話を聞いて心に残ったこと、自分自身について仕事についてから現在までの心の変化、今後どうしていきたいか、自分の志について意見交換。

グループ	論 点
A	目標、目的を達成するために必要な想い。
B	青森県民に地元をもっと好きになってもらう。青森の価値を高める。つながりを強める。
C	強い信念。目的、目標、想い、責任、将来、夢、やる気、自分を正すなど。
D	どう生きるか、何をしたいか、私だからできること。人の役に立つ自己満足。(自分が楽しくなければ人を楽しませられない)